

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 佐賀県日本語学習支援 カスタネット

1. 事業の趣旨・目的

日本語指導が必要な児童生徒を支援するサポーターを養成する。

外国人児童生徒と接点を持つ各種関係者へ、現状及び問題点を周知し、今後の課題等を議論していく場を提供する。

日本語指導員との連携を図る。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月29日 13:30～ 17:30	佐賀市アイ スクエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	子ども日本語サポ ーター養成講座開催に ついて	各小学校支援の進捗状況 報告 養成講座の内容、講師 広報などの確認
6月18日 17:30～ 20:00	佐賀市アイ スクエアビル	貞松明子 早瀬郁子 池上順子	子ども日本語サポ ーター養成講座開催に ついて	第1回目の講座内容の反 省 第2回・第3回の講座内容 やワークの内容についての 最終確認
7月17日 14:00～ 16:00	佐賀市アイ スクエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 (佐賀市) 馬場氏	子ども日本語教室に ついて 子ども日本語サポ ーター養成講座につい て	夏休み開催について／児 童生徒の参加状況 講座開催の総括／問題点 の洗い出し／スキルアップ 講座の日程、内容、講師依 頼
9月9日 10:00～	佐賀市アイ スクエアビル	貞松明子 有瀬尚子	子ども日本語教室に ついて	9月以降の開催について

17:00		早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	子ども日本語サポーター養成講座について	スキルアップ講座の最終確認 勉強会について 子ども日本語サポーター養成講座(第2シリーズ)について
12月27日 14:00～ 18:00	佐賀市アイスクエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	子ども日本語サポーター養成講座について	講義内容、発表内容の反省 勉強会について スキルアップ講座の日程、内容、講師依頼
3月4日 17:30～ 19:00	佐賀市アイスクエアビル	貞松明子 有瀬尚子 早瀬郁子 池上順子 (佐賀市) 馬場氏	子ども日本語サポーター養成講座について	全講座の総括 次年度の取り組みについて

運営委員会 佐賀市 アイスクエアで



3. 講座の内容について

- (1) 講座名 子ども日本語サポーター養成講座
- (2) 開催場所 佐賀市(アイスクエアビル内会議室)
ア 講義 同上、イ 実習 同上
- (3) 学習目標

「子ども日本語サポーター養成講座」の学習目標は、以下の3点である。まず、日本語の支援が不十分なため支障をきたしている外国人児童生徒がいることを知らせ、日本語支援の必要性の理解を促す。また、外国人児童生徒に対する日本語指導方法の講義と具体

的なワークショップを行い、実践に役立つスキルを身に付けさせる。さらに、実際に活動している「子ども日本語教室」で外国人児童生徒と交流する実習の場を設けることで、活動のモチベーションを高めさせる。

そして、「子ども日本語サポーター養成講座」の「スキルアップ講座」では、日本語教育の基礎知識の学習と、他地区の実践を聴くことで、知識を深めると継続支援のモチベーションアップを図った。

(4) 使用した教材・リソース

『日本語学級』『みえこさんのにほんご』

『小学校 JSL 国語科の授業づくり』

『外国人児童生徒を教えるためのリライト教材』

文部科学省「にほんご指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況に関する調査」

文部科学省初等中等教育局国際教育課「外国人児童生徒受入れの手引き」

(5) 受講者の募集方法

佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県学校教育課、各公民館への周知及びチラシ設置、ボランティア教室へのチラシ設置、佐賀新聞・西日本新聞への掲載等

(6) 受講者の総数 46 人

(出身・国籍別内訳 日本 46 人)

(7) 開催時間数(回数) 36 時間 (全 6 回)

講義 32 時間 (6 回)、実習 4 時間 (2 回)

(8) 参加対象者の要件

現在、外国人児童生徒の指導にあたっている人や日本語教室のボランティア。

また、外国人児童生徒の支援に関心がある人。

(9) 講座内容

大きくⅡシリーズとし、Ⅰ、Ⅱは異なる受講者で、内容はほぼ同様のものを実施した。

・第Ⅰシリーズ ①「子ども日本語サポーター養成講座」第1～3回

②「子ども日本語サポーター スキルアップ講座」第1～2回

・第Ⅱシリーズ ③「子ども日本語サポーター養成講座」第1～3回

④「子ども日本語サポーター スキルアップ講座」第1～2回

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
I ① 1	6月18日 13:00～17:00	4時間	27人	「子ども日本語サポーター養成講座」第1シリーズ1回 ・佐賀市の現状報告 ・外国人児童生徒への日本語指導の現状と子どもサポーターの役割、初期指導に	・学校教育課参事 杉町 浩 ・佐賀市国際交流協会 馬場 三佳 ・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子

				ついての講義 ・ワークショップ	貞松 明子 有瀬 尚子
I ① 2	6 月 25 日 13:00～17:00	4 時間	27 人	「子ども日本語サポーター養成講座」第 1 シリーズ 2 回 ・学校現場の声を聞く ・外国人児童生徒への日本語指導の方法、教科書を使う指導法などの講義 ・ワークショップ	・神野小学校教諭 川崎 智美 ・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
I ① 3	7 月 2 日 10:00～12:00 13:00～15:00	4 時間	28 人	「子ども日本語サポーター養成講座」第 1 シリーズ 3 回 ・実習(うち 2 時間) ・実習を終えての反省会 ・子ども日本語サポーター経験者パネルディスカッション	・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
I ② 1	10 月 22 日 13:00～16:00	3 時間	14 人	「子ども日本語サポータースキルアップ講座」第 1 シリーズ 1 回 ・基礎編:日本語教育基礎、基本文 ・実践編:日本語教材研究	・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
I ② 2	11 月 5 日 13:00～16:00	3 時間	14 人	「子ども日本語サポータースキルアップ講座」第 1 シリーズ 2 回 学校現場での子ども達の支援—福岡の事例より—	・九州大学非常勤講師 「ともに生きる街福岡の会」事務局 福岡市教委日本語指導員 和田 玉己
II ③ 1	11 月 19 日 13:00～17:00	4 時間	13 人	「子ども日本語サポーター養成講座」第 2 シリーズ 1 回 ・佐賀市の現状 ・外国人児童生徒への日本語指導の現状と子どもサポーターの役割、初期指導についての講義 ・ワークショップ	・学校教育課参事 杉町 浩 ・佐賀市国際交流協会 馬場 三佳 ・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
II	11 月 26 日	4 時間	17 人	「子ども日本語サポーター養成講座」第 2 シリーズ 2 回	・神野小学校教諭

③ 2	13:00～17:00			成講座」第2シリーズ2回 ・現場の声を聞く ・外国人児童生徒への日本語指導の方法、日本語教材を使っの指導の講義 ・ワークショップ	川崎 智美 ・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
Ⅱ ③ 3	12月3日 10:00～12:00 13:00～15:00	4時間	15人	「子ども日本語サポーター養成講座」第2シリーズ3回 ・実習 ・実習から見えてきたもの ・子ども日本語サポーター経験者パネルディスカッション	・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
Ⅱ ④ 1	2月4日 10:00～12:00	2時間	13人	「子ども日本語サポータースキルアップ講座」第2シリーズ1回 ・基礎編:日本語教育基礎、基本文 ・実践編:日本語教材作成	・佐賀大学非常勤講師 早瀬 郁子 貞松 明子 有瀬 尚子
Ⅱ ④ 2	3月4日 13:00～17:00	4時間	13人	「子ども日本語サポータースキルアップ講座」第2シリーズ2回 ボランティア活動現場での子ども達の支援—福岡市の事例より—	・九州大学非常勤講師 「ともに生きる街福岡の会」事務局 福岡市教委日本語指導員 和田 玉己

初期指導についての発表
(Ⅰ-①-2より)





スキルアップ講座(Ⅰ-②-2より)

(10) 講座の評価

① 受講者に対するアンケート結果

「子ども日本語サポーター養成講座」に関しては、それぞれの最終回にアンケートを実施した。内容は、ア)この講座を受講した動機 イ)受講の感想 ウ)もう1度説明してほしい内容 エ)子どもサポーターについての質問 であるが、そのアンケート結果をもとに以下の点をまとめる。

- ・「日本語サポーターの必要性がよく分かった。」「セミリンガルの子どもがでないために、自分が役立てたらいいなあと思った。」と日本語サポーターの必要性が十分理解された。
- ・講座受講動機が「外国人の方の子育て支援をしている、外国語を勉強している、子どもに関わる支援がしたい、教員をしていた、自分でもできるサポートがしたい」などと、サポーター希望者が受講したのであるが、講座を聴いた後、「何かできることがあれば、勉強していきたい。」「ボランティアで経験を積み、学校支援に入りたい」「子ども日本語サポーターになり、今後活動していきたい」という受講者が多く、実際にサポーター登録をした受講者は、全体の80%に及んだ。
- ・「あなたならどうする?といった心地よい緊張感を持って受講できました。」「講義だけでなく、グループワークもためになった。」「大人と子どもの違いなど様々な違いがわかり、今後の課題になりました。」「とても分かりやすく楽しかった。リライトなど勉強になった。」「受講者の方とのコミュニケーションが取れてよかった。」「現場の声が聴けたのが本当によかった。」と、講義・ワークショップ・現場の声・実習・経験者の声などとバラエティーのある構成に満足した受講者が多かった。
- ・「日本語は難しい。改めて日本語を見つめ直した。」「毎回新鮮でへえ〜と思うことばかりだった。」「レベルが高く全く違う世界で仕事をしていたので、びっくりのことばかりだった。とても勉強になった。」「とても難しかったです。国語を教えることと日本語を教えることは全く別物だと思いました。勉強させてもらいました。」などと、日本語教育という新しい知識を得、難しかったが、とても勉強になったという感想が多かった。
- ・「皆さん熱心でびっくりしました。勉強しなくては。」という意欲と、また、具体的に「文型の具

体的な指導法」「ひらがなの教え方」「普段話している言葉と、教科書に載っている言葉とどのように教えるか」「現在使われている教材の種類とメリットデメリット」など、より知識を増やしたいという学習意欲が高まった受講生が多かった。

- ・「日本語の知識がないのに教えられるのか」「個々に応じた対応をしながら指導できるのか」「どこまでやれるのか、(どこまでやらなければならないのか)」など不安に思う声も上がった。

「スキルアップ講座」の中の外部講師による講演会に関するアンケートとしては、ア)今日の講座を受講しての感想、意見など自由にお書きください、イ)講師に質問があればお書きください ウ)今後どのような講座を希望されますか、の3点について行った。

第1シリーズの結果としては、「福岡の取り組みがとても進んでいることに驚きました。教育は長期のものです、日本語指導に関しては短い期間で成果を出すことを期待されているように思います。」「福岡市の事例や活動実践を伺うことができて大変勉強になりました。」「子どもの気持ちを大切にするようにしたいと思います。」「と、他の地域での活動を聴くことで、知識の広がりという内容面とともに、同じような悩みを多くの人が経験していることを知り精神面でのサポートにもなった。

第2シリーズの結果としては、「ボランティアをして活動していくのが以前より楽しく取り組みそうに感じられました。」「地域の人々主催のボランティア教室があることを知って私もできるかなと思えた。」「言葉が文そのものであることを具体的な事例を聴いてもますます実感した。学び合いの心を忘れずに、みんなに教えたい。」「と、活動を始めて間もない受講者が持つ不安や疑問に的確に答えてもらえて、内容も実施した時期も最適であった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・ 子ども日本語サポーターの必要性の理解に繋がった。
- ・ 外国人児童生徒を支援するためには、日本語教育の視点が必要なことを受講者だけでなく、講演依頼をした行政や学校関係者にも認識してもらうことができた。
- ・ 今回実施した講座では対象者を広げたことで、佐賀県内各地から、外国人の子ども達を支援したいという多くの人材が集まり、子ども日本語サポーターの増加に繋がった。地元新聞に掲載してもらったことも効果的であった。
- ・ 受講者自身が日本語教育の知識の必要性を理解し、もっと学びたいという学習意欲が喚起できた。
- ・ 講座受講終了後、すぐに学校現場やボランティア教室(子ども日本語教室)という実践の場で活動できたことは、モチベーション継続の意味でも有効であった。
- ・ 今回実施した養成講座の問題点は、日本語教育や子ども指導法を知らない人にとっては必要な知識をすべて網羅した講座ではなかったことである。この講座を受講しただけでは、学校への指導ができないことが明らかになった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

実施主体の「カスタネット」が求める人材として、A. 学校現場で外国人児童生徒を指導するサポーターと B. ボランティア教室(子ども日本語教室)で外国人児童生徒を支援するサポーターの 2 種類があった。受講者側にもそれぞれの持っている経歴・知識・モチベーション・支援に対する意識などに違いがあり、A と B の 2 種類のサポーター像があることがはっきりした。今年度は両者が混在する養成講座であったが、今後は両者をはっきり区別して、それぞれの人材を育成していく必要がある。

まず、学校での指導活動を希望するサポーター対象に、長期的な日本語指導者養成カリキュラムを立て、日本語教育の知識や日本語の指導スキルなど、子ども指導に即した実習、発表形式などを取り入れた、実践的な充実した養成講座を行う。また、ボランティアサポーター対象に、様々な地域から外部講師を招いてその地域の実践報告を聴くような講座を定期的に開催したい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回、養成講座を実施するにあたり、佐賀市国際交流協会、佐賀市教育委員会の共催を得て実施した。また、学校現場の声として外国人児童の担任に講演してもらったことも有効であった。

昨年度熊本で実施された「九州にきた子ども達のためにー日本語支援ネットワーク in 九州」に参加し、福岡、長崎、鹿児島、熊本と 5 県の九州ネットワークの一員となり、連携を取っている。支援体制や指導方法などを共有し、九州全体の外国人児童生徒の学習支援体制が充実するように活動をしている。他地区の活動状況を受講者に説明することができた。

福岡市でのボランティアグループ「よるとも会」の活動報告は、活動体系や活動精神を聴くことができ、今後の活動のモデルとなった。

② 研修後の人材活用

(10)③で述べたように、今回の「子ども日本語サポーター養成講座」受講者は県内広範囲から、いろいろな背景の人が集まった。A の学校現場で児童生徒を支援するサポーターとして活動できる素地のある人には、学校から要請を受け、面談の上支援が必要だと決定した後、サポーターとして活動してもらった。その際「カスタネット」は、学校との細部に渡る交渉・教材についての提案・指導方法の相談等、常にサポート体制を取っている。

B のボランティアサポーターについては、講座終了後から、土曜日に行っている「子ども日本語教室」支援に参加してもらっている。

(12) 今後の課題

今回の子ども日本語サポーター養成で、多くの様々な能力を持った人材が集まった。やる気

を持って集まったサポーターに対し、いかにモチベーションを継続して適材適所で活躍してもらうかが大きな課題である。

学習意欲があり、今後学校での日本語サポーターを希望する人に対しては、(10)③でも述べたように、日本語の知識や子どもを指導するスキルを身に付けるような充実した養成講座を実施したい。

また、ボランティア教室で児童生徒を支援するサポーター希望者も多いが、現在佐賀市に 1 つある「子ども日本語教室」だけでは人材の活用が十分にできない。今後、県内各地に子ども対象のボランティア教室を立ち上げて活動の場を広げていきたい。その際は既存の大人対象のボランティア団体と連携を取りながら、その地域の中で支援できる体制作りも併せて行っていくたい。